

施策評価シート（令和2年度 実績）

まちづくりの方向性	生活の質の向上と定住人口の確保
重点的方針	1-2 学校と地域の連携による子どもたちの生きる力の育成
概要	<p>学校教育環境を充実させ、子どもたちの「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」のバランスのとれた「生きる力」を育むことを目指し、質の高い学校教育の推進を図ります。</p> <p>その中で、子どもたちの個性や発達状況に応じたきめ細かな学校教育の推進を基本とし、コミュニケーション能力や情報活用能力などの新しい時代を生きるために必要な学力を育むため、また子どもたちが持続可能な社会の創り手となることができるよう、9年間の系統的かつ柔軟な学習指導による小中一貫教育の導入や英語教育の充実など、二宮町らしい魅力ある教育環境づくりを進めます。</p> <p>また、「地域とともにある学校づくり」を目指したコミュニティ・スクールの取り組みについては、学校や保護者、地域との連携・協力を深め、地域ぐるみで地域に愛着を持った子どもたちを育成するとともに、将来二宮町を担う子どもたちの豊かな成長を支援します。</p> <p>さらに、次世代を担う子どもたちが楽しく学び、豊かな人間関係を築いていくため、今後の教育にふさわしい適切な学校を確保するために、通学区域の変更や学校の統廃合などについても推進します。</p>

No.	関連する予算等事業名	トータルコスト（千円）			庁内評価（2次評価）		
		R1	R2	R3	R1	R2	R3
1	小中一貫教育研究事業（教育研究所経費）	4,804	8,634		適当・維持	適当・維持	
2	児童・生徒安全対策事業	3,011	2,564		適当・維持	適当・維持	
3	教育振興経費	5,003	46,412		良好・維持	適当・維持	
4	学校図書館推進事業	4,096	4,216		適当・維持	適当・維持	
5	英語教育推進事業	9,213	8,835		良好・維持	良好・維持	
6	学校間ネットワーク推進事業	11,427	10,141		適当・維持	適当・維持	
7	I C T教育推進事業	5,864	89,174		適当・拡大	適当・維持	
8	二宮小学校教育振興経費	2,590	8,563		良好・維持	良好・維持	
9	一色小学校教育振興経費	1,722	7,709		良好・維持	良好・維持	
10	山西小学校教育振興経費	2,139	6,323		良好・維持	良好・維持	
11	二宮中学校教育振興経費	3,014	4,861		良好・維持	良好・維持	
12	二宮西中学校教育振興経費	2,671	5,746		良好・維持	良好・維持	
13	支援教育推進事業	20,247	22,189		良好・拡大	良好・拡大	
14	教育相談・教育支援室事業	6,577	7,962		良好・拡大	良好・拡大	
15	コミュニティ・スクール運営促進事業	3,280	2,702		適当・維持	適当・維持	
16	二宮小学校施設管理運営経費	5,460	5,655		良好・維持	良好・維持	
17	一色小学校施設管理運営経費	3,542	4,364		良好・維持	良好・維持	
18	山西小学校施設管理運営経費	4,827	4,368		良好・維持	良好・維持	
19	二宮小学校教育施設整備事業	5,323	6,971		良好・維持	良好・維持	
20	一色小学校教育施設整備事業	5,017	4,907		良好・維持	良好・維持	
21	山西小学校教育施設整備事業	3,503	5,649		良好・維持	良好・維持	
22	二宮中学校施設管理運営経費	5,579	5,044		良好・維持	良好・維持	
23	二宮西中学校施設管理運営経費	5,041	5,246		良好・維持	良好・維持	
24	二宮中学校教育施設整備事業	4,815	8,419		良好・維持	良好・維持	
25	二宮西中学校教育施設整備事業	3,113	6,084		良好・維持	良好・維持	
26	学校給食施設管理運営経費	84,945	92,532		良好・維持	良好・維持	
合計		216,823	385,270	0			

成果（○） 課題等（●）	<p>○G I G Aスクールにより、校内ネットワークや一人一台のタブレット端末が整備され、I C Tを活用した効果的な学習ができる環境が整った。</p> <p>○小学校における英語の教科化を踏まえ、英語学習における環境を整備したことにより、教員の指導力が向上するとともに児童生徒の英語の学習への意識が向上した。</p> <p>○小中一貫教育のための9年間を見通したカリキュラムが完成するとともに、ワーキングを通じて小中学校の教員同士の連携が深まった。</p> <p>●コロナ禍による社会状況から、教育に対する意識が大きく変化する中、小中一貫教育校の計画策定においても、教育環境の変化を踏まえた見直しが必要になっている。</p>
-----------------	--

分析						
分析の視点	高い	←————→			低い	
	5	4	3	2	1	
妥当性	■	□	□	□	□	
有効性	■	□	□	□	□	
効率性	□	■	□	□	□	
時代即応性	■	□	□	□	□	

※1次評価 「A：十分な成果があった」「B：一定の成果があった」「C：あまり成果がなかった」「D：成果が得られなかった」

総合評価（評価・理由等）	
B：一定の成果があった	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大による休校や活動の制限に対し、特に児童生徒の学習機会の確保に努めたところであるが、円滑かつ迅速なICT環境の整備やコミュニティ・スクールとしての地域の方々の力などにより、児童生徒の生きる力を育む取り組みは進んだ。</p> <p>また、これからの生きる力を育む取り組みとしての小中一貫教育についても、取りまとめには至らなかったものの、学校と教育委員会の連携において一貫教育の内容づくりの取り組みが進み、一定の形を示すことができた。</p>